

Art Festival

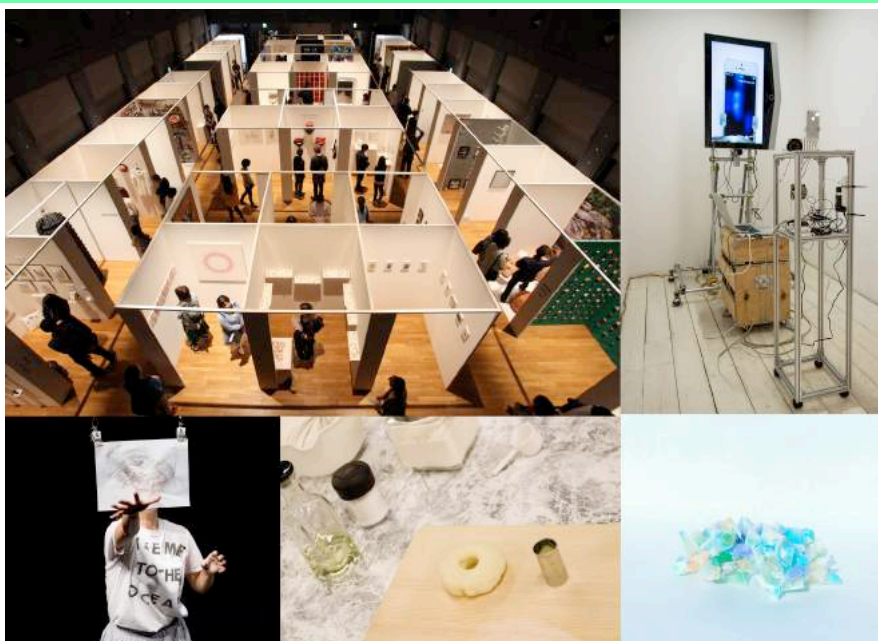
過去最大、総勢 172 組が大集結！ゴールデンウィーク恒例、
ジャンルの垣根を超えた気鋭のクリエイターによるアートフェスティバル

SICF19

Spiral Independent Creators Festival 19

会期 2018 年 4 月 29 日 (日・祝) —5 月 6 日 (日) ※5 月 1 日 - 2 日は除く

会場 スパイラルホール (スパイラル 3F)、スパイラルガーデン (スパイラル 1F)



(左上) 「SICF18」会場風景 撮影：市川勝弘 (右上) 「SICF19 EXHIBITION」 A 日程 嶋田晃士 作品

(左下) 「SICF19 PLAY」 I 日程 守屋友樹と和田ながら 作品 photo: Yuki Moriya

(中下) 「SICF19 EXHIBITION」 C 日程 菅野研インタラクティブアートグループ 作品 (右下) 「SICF19 EXHIBITION」 B 日程 あめ子雨の子 作品

スパイラルは、若手クリエイターの発掘・育成・支援を目的としたゴールデンウィーク恒例のアートフェスティバル「SICF19」（第 19 回スパイラル・インディペンデント・クリエイターズ・フェスティバル）を 2018 年 4 月 29 日 (日・祝) —5 月 6 日 (日) に開催します。

公募によって選出された気鋭の若手クリエイターが一堂に会し、立体・インスタレーション、メディアアート、写真、絵画、ファッション、プロダクトデザイン、パフォーマンスやそれら既存のジャンルに捕われない作品を発表、活発なプレゼンテーションを展開します。会期の最後には審査員により、優秀作品にグランプリ、準グランプリ、各審査員賞を、来場者の投票により、オーディエンス賞を授与します。グランプリ受賞者には顕彰として、スパイラルでの個展開催（作品展開）の機会が与えられます。19回目を迎える今回は、従来のブース出展形式である「EXHIBITION」と、新たに部門化したパフォーマンスプログラム「PLAY」の2部門を展開、過去最大数となる総勢172組のクリエイターが集結します。さらに、前年の受賞者が作品発表を行なう「SICF18 Winners Exhibition」、「SICF18 Winners Performance」を同時開催するなど、スパイラル全体が若手クリエイターの感性で彩られます。前年は延べ約13,000人が来場したゴールデンウィーク恒例のアートイベント、この機会にぜひご掲載・ご取材くださいますようお願い申し上げます。

ご掲載に関するお問い合わせは下記までご連絡ください。
スパイラル/株式会社ワコールアートセンター 広報部 浅野仁美
〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23
TEL 03-3498-5605 FAX 03-3498-7848

E-mail press@spiral.co.jp SPIRAL WEB <http://www.spiral.co.jp/>

SICF SPIRAL
INDEPENDENT
CREATORS
FESTIVAL **spiral**

EXHIBITION 参加者決定！**A 日程 (2018 年 4 月 29 日—30 日)**

栗原佑実子、GENERATIVE ART STUDIO、青木亨平、矢野恵司、徳永博子、嶋田晃士、立石剛、坂本大幸、長谷川海、荒井佑実、氷見こずえ、中沢彩美、kurumi、AyumiTsukagoshi&KeiichiroTanaka、タニモト大作、池ヶ谷香奈子、KANAMI TAKEDA CERAMICS、鈴木希果、速水一樹、藤中康輝/板倉諄哉/金森由晃、げるたま、鈴木ひょっとこ、コウゴ・カナエ、カサハラメイ、水嶋裕一、中村宏太、あないまみ、Endplaydevice、Yoshi、砂田夏海、にしようこ、鷺野愛未、さいとうたいち、大槻雑貨店、ハヅキムトウ、しかとまいこ、佐藤将輝、pOp0balloon、tkhss、山内奏、HOYAPAI 女将、MIKIKO、tominagaasuka、大渡朋子、夢乃、蓮輪康人、小方英理子、kafkanako、Sacco、凹

B 日程 (2018 年 5 月 3 日—4 日)

川島梨紗子、安部寿紗、Limo、堀康史、鈴木舞、三浦かおり、加藤立、Little Riddle、高橋祐亮、上野はるか、磯部陽一、菅原有生、ヤマザキ ミカ、柴田高志、石川慎平、田中愛子、荒井佳奈子、遠藤和希子、MIHO TARUI、吉春吉、sisino、CANOO、宮木沙知子、オビマリ、清水智裕、三島大世、菊地絢女、内田大司、田村麻未、吉田あさぎ、シモトラノスケ、KOHKI HIRAMATSU、清宮百穂、藤田永子、高橋美衣、大平真梨、KOSUKE MOTOHASHI、doronco dorothy、岡真奈美・武藤琴音、chiroko nakata、山中春海、松岡杏和、Kazuhiro Hiramaki/Satomi Kawai、中村正、ナガノサクラコ、村岡由梨、石川佳奈、あめ子雨の子、水野櫻子、鳥越義弘

C 日程 (2018 年 5 月 5 日—6 日)

花とハンキー、井上幸子、Ritenuto、大山里奈、UEBO YOSHIDA SOCIETY、TANGO CHIRIMEN PROJECT、菅野研インタラクティブアートグループ、野村絵梨、内田聖良、七海麻衣(ICE PEDESTRIAN)、古屋郁、Yudai Yabumoto、248 NISHIYA、橋本ユタカ、横峯竜之、AKANE KOJIMA、田村真理、田中康晃、Maasa Nishimura、小野愛、Mimoko Wakatsuki、開藤菜々子、Inflorescence、HARANO、Barbara Gil、小松可奈子、堀井映理、西川千尋、坪山斉、Aira、岩泉慧、藤森哲、土井彩香、新海美穂、ロングスイミング、藤原千晶、小川由利子、TETSUJIN - AUDIO VISUAL (高橋哲人、モシ村マイコ)、モロモトタクマ、宮内由梨、AZU KIMURA、Maxime Boyer-Degoul、中村ヒカル、Junya Melonpan、山田真由、油井俊哉+鈴木敦也、菅風子、ten en、Tsuji Tomoka、近藤南

PLAY 参加者決定！**I 日程 (2018 年 4 月 30 日)**

加藤花鈴 feat.KIRIE、劇団子供鉦人、酒井直之、鈴木アイリ、関優花、dance in the rain、月亭太遊、pOp0balloon、HOYAPAI 女将、守屋友樹と和田ながら、柳生二千翔、山崎真結

II 日程 (2018 年 5 月 4 日)

入手杏奈、viiiize、カッチョイイカンパニー、木村玲奈、新庄恵依、寺杉彩、中西みみず、橋本匠、船川翔司、Von・no ズ、三橋俊平、米澤一平×蔵田みどり

※3月13日(火)現在。EXHIBITION、PLAYの参加者は変更する場合があります。

※PLAY出演者のタイムテーブルはSICFウェブ(www.sicf.jp)でご確認ください。

参加クリエイターの特徴

EXHIBITION、PLAY参加者の平均年齢はそれぞれ33.2歳と29.1歳。個人で表現活動を行なう、クリエイターや芸術系教育機関勤務者・修了者・在学生が多い傾向にあります。一部のクリエイターはEXHIBITIONとPLAYの両部門に参加するなど、現代の多様なクリエイティビティが映し出された、ジャンルレスな活動を行なうクリエイターの参加も目立ちます。

SICF フェイスブック

www.facebook.com/SpiralIndependentCreatorsFestival

SICF ツイッター SICF_official

SICF インスタグラム sicf_jimukyoku

SNS 共通ハッシュタグ #sicf19

SICF の見どころ

ジャンルの垣根を超えて活躍する気鋭の若手作家150組が大集結！

これまで延べ1743組もの気鋭のクリエイターを紹介してきたブース出展形式の「EXHIBITION」部門。前年に引き続き、ジャンルの垣根を超えて活躍する気鋭の若手作家150組がスパイラルに集結します。会場では、出展者から直接作品を購入することも可能です。「今」と真摯に向き合い、野心的に制作活動を行なうクリエイター渾身のプレゼンテーションをご堪能ください。



360度開かれた直径10mの円形空間を舞台に、10分間の挑戦！

2017年に開催した「SICF18」の関連企画として始まったパフォーマンスプログラム「PLAY」。社会においてますます多様性が求められるなか、現代アートの表現領域も、身体表現、言論、メディアアートなど広範囲に及んでいます。PLAYは、360度開かれた直径10mの円形空間を舞台に、ダンスや演劇、来場者参加型作品などのパフォーマンス、スパイラルの空間を活かしたインスタレーションなど、10分以内で自由に表現する新部門です。挑戦的な未だ見ぬ才能がここに集結します。



tantan 『触らぬ神にたたりなし。』 撮影：市川勝弘

来場者との「出会い」から生まれる、クリエイターの活躍の場

未知の才能と出会う開かれた発表の場「SICF」では、これまでアートファンはもちろんのこと、ギャラリストやコレクター、アートディレクター、プレス関係者の方々と、若手クリエイターを結び付け、出展者の活動の幅を拡げるきっかけとなってきました。「EXHIBITION」出展者の約30%※はSICFに過去に応募経験があり、そのリピート率の高さから、効率よくアートに興味のある層にアプローチできる「場」を求めてSICFに集まっていることがわかります。

※SICF事務局調べ（2018年3月現在）

スパイラルからその先へ。充実した作家支援

SICFの出展から、活躍の舞台が広がっていきます。スパイラルが館外でアートディレクションを行なうアートイベントへの起用や、海外での展示機会の提供、プロダクトの展示・販売機会への提供などに、積極的に取り組んでいます。

■作家支援の一例

SICF15に浅井隆賞を受賞した長谷川依与は、2017年3月17日（金）—18日（土）にチェコにあるPod Všemi svatými 2にて開催された、光の祭典「BLIK BLIK: Festival of light 2017」に出展しました。

展覧会 URL：

<https://www.depo2015.cz/en/program-depo-ag14/blik-blik-festival-svetla-a-umeni-ve-verejnem-prostoru-a1561>



開催概要

名称 SICF19 (第19回スパイラル・インディペンデント・クリエイターズ・フェスティバル)

会期 2018年4月29日(日・祝)―5月6日(日) ※5月1日―2日は除く

[EXHIBITION]

A 日程: 2018年4月29日(日・祝)―30日(月・振替) 11:00―19:00 [50組]

B 日程: 2018年5月3日(木・祝)―4日(金・祝) 11:00―19:00 [50組]

C 日程: 2017年5月5日(土・祝)―6日(日) 11:00―19:00 [50組]

[PLAY]

I 日程: 2018年4月30日(月・振替) 14:00―17:30 [12組]

II 日程: 2018年5月4日(金・祝) 14:00―17:30 [12組]

※出演者のタイムテーブルはSICFウェブ(www.sicf.jp)でご確認ください。

会場 [EXHIBITION] スパイラルホール(スパイラル3F)

[PLAY] スパイラルガーデン(スパイラル1F)

〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23

東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線「表参道」駅 B1、B3 出口すぐ

入場料 [一般] 1日券 700円 / 通し券(A・B・C日程) 1200円

[学生] SICF公式Facebook、twitterに「いいね!」「フォロー」で無料(要学生証提示)

※スパイラルホールのみ(スパイラル3F)のみ入場料をいただきます。

※中学生以下は無料でご入場いただけます。

審査員 [EXHIBITION]

(敬称略) 石田尚志 / 画家・映像作家、多摩美術大学准教授

平田晃久 / 建築家、京都大学准教授

藪前知子 / 東京都現代美術館 学芸員

大田佳栄 / スパイラル チーフキュレーター

[PLAY]

栗栖良依 / SLOW LABEL ディレクター

住吉智恵 / アートプロデューサー、ライター

中村茜 / 株式会社プリコグ代表、パフォーミングアーツプロデューサー

山城大督 / 美術家・映像ディレクター

※審査員は決定次第随時、SICFウェブ(www.sicf.jp)でお知らせします。

主催 株式会社ワコールアートセンター

企画制作 スパイラル

協賛 特定非営利法人青山デザインフォーラム

協力 株式会社ORANGE SENSE、株式会社協進印刷、CLIP、株式会社耕文社、

株式会社ステージフォー、株式会社竹尾、ホルベイン画材株式会社

グラフィックデザイン 日本デザインセンター 大黒デザイン研究室

お問い合わせ 03-3498-1171 (スパイラル代表)

開催期間中は、審査員やゲストによるトークプログラム、過去SICF受賞者・参加者による作品の展示、ワークショップの開催など、イベントが盛りだくさん。詳細はSICFウェブにて随時更新しています。

www.sicf.jp

【同時開催】SICF18 Winners Exhibition 開催概要

前年の「SICF18」受賞者が作品展示・発表を行ないます。

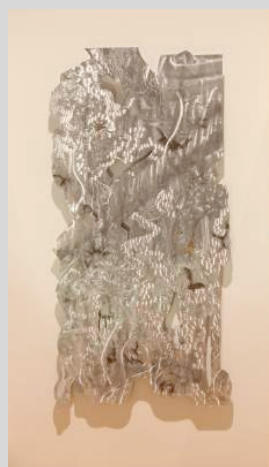
会期 2018年4月28日(土) —5月6日(日) 11:00—20:00 会期中無休

入場無料

会場 スパイラルガーデン (スパイラル 1F)

出展者 東城信之介 (グランプリ)、クラトミタカユキ (準グランプリ)、euglena (準グランプリ・オーディエンス賞)、長雪恵 (石田尚志賞)、黒田恵枝 (栗栖良依賞)、角谷沙奈美 (張熹賞)、金親敦 (中村茜賞)、河本蓮大朗 (森永邦彦賞)、名倉達了 (藪前知子賞)、福重美幸子 (スパイラル奨励賞)

■受賞者作品紹介(一部)



東城信之介 (グランプリ)

0.3mm ほどの厚みの鋼や銅といった多種多様な金属板を酸化させ、表面に細かい傷をつけることによって不思議なイリュージョン空間が生み出された作品。その高い技術力と、絵画と彫刻の境界をめぐる美術史の議論を想起させる作品が評価されました。



Euglena (準グランプリ・オーディエンス賞)

練り消しの台座に、綿毛で形づくられたオブジェが印象的な作品。わずかな気流で揺れながら、小さな影を落とす様は繊細でありながらも、緊張感と力強さを兼ね備えています。審査員や来場者の多くを魅了し、準グランプリとオーディエンス賞をダブル受賞しました。

【同時開催】SICF18 Winners Performance 開催概要

前年に開催された「SICF18 PLAY」の受賞者が作品発表を行ないます。

会期 2018年5月6日(日)

14:00—16:00

入場無料

会場 スパイラルガーデン (スパイラル 1F)

出演者 関川航平 (最優秀賞)、
tantan (栗栖良依賞)、
西尾香織ソロ企画 (中村茜賞)

※各出演者のタイムテーブルは SICF ウェブにてご確認ください。



関川航平 (最優秀賞)

いくつかの過去に見た風景についてと、実際にパフォーマンスをしている場所から見える風景についてを即興でランダムに入り混せて喋り続ける作品。鑑賞者は言葉から想起されるイメージがつかめず、その独特な世界に引き寄せられました。

SICF18 グランプリ・SICF18 PLAY 最優秀賞受賞者 活動報告**東城信之介 (SICF18 グランプリ)****SICF18 グランプリアーティスト展『Cover up the ここ』開催**

2018年1月9日(火)―14日(日)にショウケース(スパイラル1F)にて東城信之介による個展を開催しました。グランプリ受賞者の顕彰として開催された本展では、ギリシャの街中に残された落書きを撮り溜めた写真群をモチーフに、時間経過や誰かが触れた痕跡をなぞり、上書きして自分を残すことを目的とするタギング(Tagging)というシリーズの新作を発表しました。

撮影：ただ(ゆかい)

東京都現代美術館 学芸員 藪前知子氏との特別対談を Spiral Paper no.146 に掲載

藪前知子氏が SICF18 の審査員になったことが、応募の動機となったと語る、東城信之介。対談では、コンテンポラリーアートを通して私たちが生きる世界を見つめる二人に、作品制作の背景や現代社会におけるアーティストのあり方についてのお話を伺いました。対談の様子は、2018年3月27日発行予定の Spiral Paper no.146 および、SICF ウェブ(www.sicf.jp)に掲載します。

(左) 藪前知子 (右) 東城信之介

関川航平 (SICF18 PLAY 最優秀賞)**Spiral Paper no.146 に単独インタビュー記事を掲載**

散文詩を思わせる自由な言葉の連なりからなるパフォーマンス作品『片耳をふさぐ』で初開催の SICF18 PLAY で最優秀賞を受賞した、美術作家の関川航平。パフォーマンスやインスタレーション、イラストレーションなど多様なジャンルを横断する彼に、制作を続けてきた理由や、最近の作品について話を伺いました。